

日本財団補助金による
1998年度日中医学協力事業報告書
－学術交流に対する助成－

1998年11月30日

財団法人 日中医学協会
理事長 中島章殿

報告者氏名 高久晃 
所属・役職 富山医科薬科大学長
所在地 〒930-0194 富山市杉谷2630
電話 (0764) 34-2281 内線 2000

講演集・シンポジウム写真等学会に関する資料を添付

学会・学術交流の名称 中国交流協定機関若手研究者シンポジウム

テーマ 学術交流：その成果と将来の課題

主催団体 富山医科薬科大学

代表者 高久晃

期間・開催地 1998年10月27日～10月29日・富山市

参加者数 日本側 8名 中国側 6名

招へい・派遣目的 本学と国際交流協定を締結している機関である瀋陽薬科大学、中日友好医院、中国中医研究院及び北京医科大学から派遣され本学の博士課程を修了し、協定締結機関又は大学等に帰国して活躍している研究者のより一層の活躍を期待するため、招へいしそのフォローアップを行い医学・薬学研究の進展及び日中両国友好の促進を図ることを目的とする。

1. 招へい・派遣研究者 人数 6 人 記入欄不足の場合は別紙を添付。

氏 名	所 属 ・ 役 職	研究分野
劉 紅 星	日中友好病院 薬剤部長	薬剤学
車 慶 明	北京医科大学 薬学院 教授	天然物化学
劉 玉 萍	中国中医研究院 中薬研究所 助教授	生薬学
楊 秀 偉	北京医科大学 薬学院 教授	天然物化学
崔 承 彬	北京生物医薬研究所 主任研究員	天然物化学
趙 懷 清	瀋陽薬科大学 助教授	分析学

滞 在 期 間 自 1998 年 10 月 26 日 至 1998 年 10 月 30 日

2. 主な滞在日程

10月27日 午前 学長との懇談会，和漢薬研究所長との懇談会
午後 学内施設見学

10月28日 シンポジウム 1 難波恒雄 国際交流を考える－多数の留学生・客員研究員との
交流研究を中心に－
2 劉紅星 日本留学の経験と中日友好病院における国際的活動
3 車慶明 和漢薬成分の薬物代謝及びその薬効
4 劉玉萍 中国における遺伝子解析による生薬の鑑定
5 楊秀偉 中草药の抗腫瘍活性について
6 崔承彬 細胞周期の新規低分子制御剤の探索
－国際交流による共同研究の展開－
7 趙懷清 富山医科薬科大学での研究生活
8 寺澤捷年 脳血管性痴呆に対する釣藤散の効果

10月29日 午前 県内企業見学
午後 在学留学生との交流会

3. 学術会議報告

(別紙書式を参考に，成果・今後の課題等2000字以上で報告してください。ワープロ使用)

4. 収支報告

交付を受けた金額 500,000 円

支出内訳(旅費・宿泊費・印刷費その他の項目別に記載 別紙可・領収書コピーを添付すること)

区 分	金 額	使 用 目 的
旅費	302,019 円	崔承彬(171,909円)，趙懷清(130,110円) 分 内訳は別紙のとおり
宿泊費	198,550 円	劉紅星，車慶明，楊秀偉，崔承彬分(4泊)及び趙懷清分 (3泊)
合 計	500,569 円	

中国交流協定機関若手研究者シンポジウム

テーマ「学術交流：その成果と将来の課題」

日本側主催代表者・高久 晃・富山医科薬科大学長

中国側代表者・劉 紅 星・中日友好病院 主任薬剤師

学会報告

高久 晃・富山医科薬科大学長

富山医科薬科大学では、瀋陽薬科大学、中日友好病院、中国中医研究院及び北京医科大学と大学間交流協定を結んでいる。これらの協定機関との継続的な学術交流及び友好関係の推進を図るため、1997年8月に、北京において第1回大学間定期国際学術交流として学生間交流を行い、医学科、薬科学科、看護学科及び大学院学生が訪中した。

1998年10月に開催の本シンポジウムは、第2回大学間定期国際学術交流として若手研究者の交流のため、交流協定機関から本学に留学し、博士課程を修了して学位取得後中国に帰国した若手研究者を招へいし開催したものである。

若手研究者の招へいにあたっては、協定機関から派遣され協定機関に帰国している者、協定機関以外から派遣され協定機関に帰国している者、協定機関から派遣され協定機関以外の研究機関に帰国している者の順位で選考し、6人を招へいすることにした。

テーマには、学問分野に関わりなく発表及び参加できるように「学術交流」そのものを選び、実際に留学生として日本での研究生活を送った経験の上に積み重なった、現在の研究を中心とした「留学の成果」についてを、また、そこから発展する「将来の課題」についての発表により、本学の今後の学術交流を躍進させる機会となるよう期待した。

10月28日のシンポジウムは、高久 晃学長のあいさつに始まり、引続き難波恒雄氏（富山医科薬科大学名誉教授）による「国際交流を考えるー多数の留学生・客員研究員との交流研究を中心にー」と題した基調講演が行われた。在任中約100人の留学生を受入れ教育研究指導した実績から、今後の国際交流への提言をいただいた。

中国交流協定機関から招へいした若手研究者による演題は次のとおりである。

- 1 劉 紅 星（中日友好病院 薬剤部長）
「日本留学の経験と中日友好病院における国際的活動」
- 2 車 慶 明（北京医科大学 薬学院 教授）
「和漢薬成分の薬物代謝及びその薬効」

- 3 劉 玉 萍（中国中医研究院 中薬研究所 助教授）
「中国における遺伝子解析による生薬の鑑定」
- 4 楊 秀 偉（北京医科大学 薬学院 教授）
「中草薬の抗腫瘍活性について」
- 5 崔 承 彬（北京生物医薬研究所 主任研究員）
「細胞周期の新規低分子制御剤の探索－国際交流による共同研究の展開－」
- 6 趙 懷 清（瀋陽薬科大学 助教授）
「富山医科薬科大学での研究生生活」

劉紅星氏は、本学附属病院薬剤部での研究による学位取得後、中日友好病院に勤務し、現在は薬剤部長として活躍している。シンポジウムでは、中日友好病院における新システムの確立や薬物研究・新薬開発に関した内容を中心に、劉氏が携わっている中日交流の現況について発表があった。車慶明氏、楊秀偉氏は北京医科大学薬学院で教授の、劉玉萍氏は中国中医研究院中薬研究所で助教授の職につき、日本で修得した知識を基礎に多角的な側面から展開した和漢薬の研究成果について発表があった。崔承彬氏は、新設された北京生物医薬研究所の所長として機関の整備に精力的に取り組んでおり、研究分野における国際交流の必要性を力説した。趙懷清氏は、瀋陽薬科大学の助教授であり、和漢薬研究所客員研究員として共同研究した経験から、交流協定機関からの視点での発表があった。座長はそれぞれの講演者の指導教官にお願いしたが、すでに停年退官された方もあり、大学院終了後、社会的にも研究分野でも著しく成長した姿と対面するよい機会となった。

最後に、本学医学部和漢診療学の寺澤捷年教授による「脳血管性痴呆に対する釣藤散の効果」と題した講演があり、盛会裡に本シンポジウムを終了した。

また、29日には、関連行事として本学留学生会主催による交流会が催された。現在の留学生は、過去に留学生であった若手研究者達との懇談により、修学、研究、日本での生活等について種々の助言を得ることができ、さらに、留学生及び研究者双方が今後の国際学術交流のあり方について積極的に検討する場となった。

今回のシンポジウムは、大学間協定機関との実質的な交流を一層推進することを目的に、昨年の本学学生の中国派遣に引続き、若手研究者を招へいするために企画された事業である。学生交流と同様、招へいした若手研究者が今後の日中交流の担い手となって充実した交流が続くことを願い、また、人材派遣による協定機関との定期的な交流が、相互理解の増進と信頼に基づく友好関係を導くものとなることを確信している。

最後に、本事業の遂行にあたり、日中医学協会からご支援いただいたことに関係者を代表して心から謝意を表したい。

平成10年度国際学術交流

中国交流協定機関若手研究者シンポジウム

プログラム

テーマ「学術交流：その成果と将来の課題」

主催 富山医科薬科大学

日時 平成10年10月28日（水）

会場 富山医科薬科大学 医学・薬学研究棟
ゼミナール室1・2

中国交流協定機関若手研究者シンポジウム

9 : 1 0 - 9 : 2 0

開会の辞 服部征雄（国際交流委員会 委員長）
挨拶 高久 晃（富山医科薬科大学長）

9 : 2 0 - 1 0 : 1 0

基調講演

難波恒雄 名誉教授

「国際交流を考えるー多数の留学生・客員研究員
との交流研究を中心にー」

座長：服部征雄（和漢薬研究所 教授）

1 0 : 1 0 - 1 0 : 5 0

座長：堀越 勇（富山医科薬科大学名誉教授）

演者：劉 紅 星（日中友好病院 薬剤部長）

演題：日本留学の経験と日中友好病院における国際的活動

1 0 : 5 0 - 1 1 : 3 0

座長：難波恒雄（富山医科薬科大学名誉教授）

演者：車 慶 明（北京医科大学 薬学院 教授）

演題：和漢薬成分の薬物代謝及びその薬効

1 1 : 3 0 - 1 2 : 1 0

座長：小松かつ子（和漢薬研究所 助教授）

演者：劉 玉 萍（中国中医研究院 中薬研究所 助教授）

演題：中国における遺伝子解析による生薬の鑑定

1 2 : 1 0 - 1 3 : 1 0 昼食

13:10-13:50

座長：難波恒雄（富山医科薬科大学名誉教授）

演者：楊 秀 偉（北京医科大学 薬学院 教授）

演題：中草薬の抗腫瘍活性について

13:50-14:30

座長：菊池 徹（富山医科薬科大学名誉教授）

演者：崔 承 彬（北京生物医薬研究所 主任研究員）

演題：細胞周期の新規低分子制御剤の探索

－国際交流による共同研究の展開－

14:30-14:45 休憩

14:45-15:25

座長：服部征雄（和漢薬研究所 教授）

演者：趙 懷 清（瀋陽薬科大学 助教授）

演題：富山医科薬科大学での研究生活

15:25-16:00

基調講演

寺澤捷年

「脳血管性痴呆に対する釣藤散の効果」

座長：倉石 泰（薬学部 教授）

16:00 閉会の辞